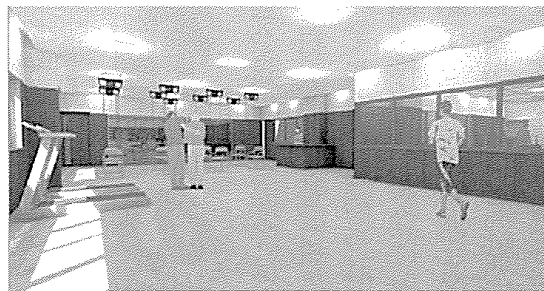
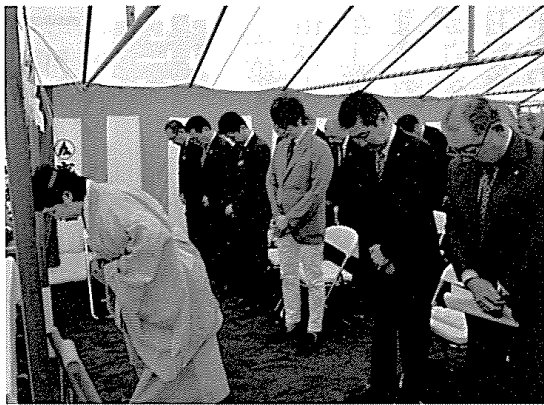


SPECIAL

9月28日に行われた地鎮祭のもよう(写真上)と「たかほ」(同中)、「コレカラ」の完成予想図

福祉

# シルバーフィットネスクラブなどの新機軸導入 さつき会のサ高住「ぬくもりの家たかほ」が地鎮祭



鷹栖町内で特別養護老人ホームなどを運営する社会福祉法人さつき会(同町南1・3、木津真庭理事長)は北野東3・1の町有地にサービスクラブ高年齢者住宅(サ高住)の新設に向け、9月28日に地鎮祭を行った。

「ぬくもりの家 たかほ」(以下、たかほ)と名付けられたこの施設は、建物内に高齢者向けフィットネスクラブや地域住民との交流スペースを組み込んだ新しいタイプのサ高住。既に札幌には、フィットネスクラブ付きのサ高住はあるが、上川管内では初めてだ。

建設地は昔の道警官舎跡地で、鷹栖町はこの土地を2011年6月に取得した。町ではかねてから、複数の民間事業者がこの地へのサ高住新設を待ちかけており、この話にさつき会が応じた。

建物規模は鉄骨造、2階建て、延べ床面積1175平方メートル。1階に居室4戸のほか、高齢者向けフィットネスクラブおよび地域住民との交流スペースを設け、2階は全て居室(14戸)に当てている。土地は町からの無償貸与で、総事業費は約3億5500万円となっている。

最大の特徴は、建物内に設けられるシルバーフィットネスクラブ「コレカラ」だ。同クラブは、虚弱および介護高齢者の介護予防を目的に最新の高齢者向けリハビリ機器を設置。さらにリハビリ専門職を配置して、住民有志からなる介護予防サポーターと協同で住民参加型の介護予防事業を実施する。

また、地域住民との交流スペース「あえる」は食堂機能を有し、食堂やサロン活動を通じて、

開所は来年5月頃の予定。問い合わせ等はさつき会(☎0166・87・3321)まで。

地域との結びつきを強化、高齢者が生涯活躍できる場を提供するとしている。さまざまな新しい機能を有する「たかほ」だが、これには国策として25年までに市町村毎の整備が求められている「地域包括ケアシステム」の拠点に、「たかほ」を利用したいという町の狙いがある。

地域包括ケアシステムとは、高齢者の自立生活の支援の目的に、可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを続けられるよう、地域が包括的な支援・サービスを提供する体制を構築することを指す。要介護者になる前の高齢者を受け入れ、介護予防に努める「たかほ」は、この拠点にうつつつけの施設だろう。